

新たな視野獲得を目指す実践演習

佐藤和彦, 小林洋介, 柴田傑, 須藤秀紹, 塩谷浩之, 岸上順

取り組み

室蘭工業大学の情報系カリキュラムでは、未知課題に対する解決力を育てる問題解決型(Problem-based)な演習は永く実践されてきたが、企業などのプロジェクト課題(Project-based)を解決する演習は行われてこなかった。enPiT2の教育プログラムとして、地域課題や企業課題を学生らが解決する演習を充実させると共に、企業視点、地域視点、他大学あるいは他学科の学生視点など異なる視点からみた考え方を意識できるような人材育成を主眼に置いた

何が得られた？

同じカリキュラムを学ぶ学生同士のグループ演習しか体験してきていない学生らが、普段の演習では得られない様々な異なった視点で同じものを見たときの考え方の違いを実体験を通して獲得した

- ユーザ中心の視点
- 企業（顧客）の視点
- 他大学学生の視点
- 他学科学生の視点
- 本学の教員や大学院生(TA)の視点
- 他大学の教員の視点



活動内容

夏合宿：ビジネスシステムデザイン基礎演習

課題「北海道の夜景をインタラクティブに展示する！」
空港での展示を想定したフィジカルコンピューティングシステムの開発

1日目：
ガイダンス、表現手法、センサープログラミングの基礎演習。夕方、バスで室蘭夜景を実際に見てまわり、資料写真撮影



2日目：
夜景素材を活かした展示物のデザインとプロトタイプ開発



3日目：
プロトタイプを用いたデモンストレーション発表会。見学者の協力企業や教員による評価による表彰

夏合宿：ユーザセンタードデザイン演習

課題「未来の中島商店街のサービスデザイン」
室蘭市中心部にある中島商店街エリアでのフィールドワーク演習

4日目：
市街地中心部の空き店舗に会場を移し、スケッチブック片手にフィールドサーベイ。カスタマジャーニーマップ作成



5日目：
5年～10年後の中島商店街について、未来のICT技術を想像しながらのアイデア出し。午後からは、自分たちのアイデアを箱庭法やQ&Rプロトタイピングによる具象化作業。ガラス張りの会場は大型スーパーのすぐ隣。街行く人々が度々中を覗いていきます



最終日：
仕上げ作業。実際にアイデアが利用されている未来をイメージしたPPT紙芝居作り。中島商店街コンソーシアムの方を招いての成果発表会。振り返り



発展学習：情報システム学実験(enPiTプログラム)

課題「北海道新幹線札幌延伸後の胆振(室蘭～苫小牧)エリアの課題解決」
胆振エリアに途中下車して観光してみたいくなる斬新な車内エンターテインメントのデザインとプロトタイピング

【チームの設定】システム設計G所属の「室蘭システム開発(仮)」の社員。JR北海道向けの斬新な車内エンターテインメントの要求仕様とユーザインタフェースのプロトタイプを、社内の開発チームのために制作する。

【チームの目的】

- ・長万部で新幹線と途中下車して、胆振地区を観光してみたいと思う人を増やす
- ・胆振地区を実際に訪れた人を満足させることでリピート率を上げる
- ・体験を共有することで、胆振地区に興味をもつひとを増やす

第1週～第7週：
enPiT受講生(情報)と、本学の建築・土木系3年の選択演習「都市・地域計画」受講生が合同演習を実施。異分野の学生同士がチームを組んでのアイデア立案に挑戦した



第8週～第10週：
情報と土木各々の演習に別れ、enPiT受講生のみで更にICT技術を活かすアイデアに煮詰めていく



第11週(12/09)

公立はこだて未来大において連携校4校(未来大、岩手県立大、会津大、本学)およびその参加大学による合同中間発表会を実施



第12週～第15週

アイデア具体化とシステム設計を進め、インタフェースのプロトタイプ作成まで行う。1/23(受講生)に成果報告会を予定

2018年度はこう変わる！

発展学習が研究室単位のプロジェクト演習に変わります。今年度は1社だった連携企業も拡充。それに伴い、enPiT対応プロジェクトを複数用意して、それらを選択した学生がenPiT受講生とするやり方になります

